

# 社会認識形成と世界像形成の統合による「産業学習」の内容構成 —英国中等地理テキストブック”NEW KEY GEOGRAPHY”を事例として—

佐 藤 克 士 \*

(平成28年6月8日受付, 平成28年12月6日受理)

## A Contents Structure of “Industrial Learning” to integrate the Social Recognition Formation with the World’s Image Formation :

An analysis based on the KS3 Geography Textbook “NEW KEY GEOGRAPHY”

SATO Katsushi \*

The purpose of this study is to clarify the contents structure in the industry unit of KS3 geography textbook “NEW KEY GEOGRAPHY” based on the framework of the social recognition formation and the world’s image formation. As a result of this study, the author has confirmed the following two organizing principles: the one, the social recognition formation, to systematically develop the geographical perspective, and the other, the world’s image formation, to gradually expand spatial dimensions.

Key Words : Geographical Education in England, KS3, Contents about Industry Unit, Social Recognition Formation, World’s Image Formation,

### I. 問題の所在

本研究の目的は、英国地理教育における産業を取り上げた学習（以下、「産業学習」）の内容構成を、社会認識形成と世界像形成の2つの視点から分析することを通して、その内容構成論を解明することである。

わが国の英国地理教育に関する研究は、中井・岩田を嚆矢として数多くの成果が蓄積されてきた<sup>(注1)</sup>。特に、1988年に成立した教育改革法に基づき導入された『ナショナル・カリキュラム地理』の分析は、わが国の社会科地理教育を検討する上で大変示唆的である。例えば英国のそれは、社会諸科学の研究成果を反映し、社会認識形成に有効性の高い内容構造を有している典型例として高く評価されている<sup>(1)</sup>。具体的に『ナショナル・カリキュラム地理 (KS3)』では、教育段階を4つに区切った各 Key stage (以下, KS) において子供に教えられるべき内容を示した学習プログラム (Programme of Study) と、各 KS の終わりに学習成果として大多数の子供に期待されている行為能力を示した到達目標が体系的に配列されている<sup>(2)</sup>。2007年版の KS3 (日本の中学校に相当) には、子供が認識・獲得しなければならない鍵概念として、「場所」、「空間」、「スケール」、「相互関係」、「自然的プロセスと人文的プロセス」、「環境の相互作用と持続可能な開発」、「文化の理解と多様性」の7項目が位置づけられており<sup>(3)</sup>、これら地理学の成果を中心とする鍵概念を獲得したり、活用し

たりすることを通して、科学的な社会認識形成が図られる構成となっている (表1)。

また、わが国のカリキュラム構成論と異なる多核的同心円拡大法<sup>(4)</sup>という論理でカリキュラムが構成されている点も大変興味深い。志村は多核的同心円拡大法の特徴について「小学校低学年段階 (KS1 段階) から自分が居住する場所周辺の地域社会 (身近な地域社会) だけでなく、同じスケールの国内外の地域社会をも学習する構成となっている点にある<sup>(5)</sup>」と述べ、この論理に基づいてカリキュラムを構成すれば、初等教育の早い段階から狭い空間的範囲にせよ、居住している場所だけでなく、世界各地を学習し、世界像を構築することになると指摘している<sup>(6)</sup>。このような考え方は、身近な地域を中心とする中心部と世界に関する外縁部を整合的に位置づけることによって1つのまとまりある豊かな世界像が形成されると主張した斎藤の「発生的地理教育論」<sup>(7)</sup>とも符合する。

本研究では、『ナショナル・カリキュラム地理 (KS3)』の特徴が社会認識形成と世界像形成の2つの論理を基盤とする内容構成にあるという前提のもと、その論理がどのように子供用テキストブックに反映されているのかを明らかにしていく。子供用テキストブックを分析対象とする理由は、『ナショナル・カリキュラム地理 (KS3)』や「単元計画例」の構造を分析した先行研究<sup>(注2)</sup>はあるものの、それらとテキストブックとの結び付き (反映) について

\* 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科学生 (Doctoral program student of the Joint Graduate School in Science of School Education, Hyogo University of Teacher Education)

表1 2007年版『ナショナル・カリキュラム地理(KS3)』の鍵概念

鍵概念	内容
場所	a 実際の場所の自然的・人文的特色の理解 b 場所の「地理的想像力」の開発
空間	a 様々な場所と、情報・人・物の流れにより生み出されたネットワークの間の相互作用の理解 b 場所と景観がどこに立地し、なぜそこに位置しているのか、そのパターンや分布がなぜ生まれたのかの理解。さらに、なぜ場所や景観が変化し、その変化が人々にとってどんな意味をもっているのかの認識。
スケール	a 個人からローカル、国家、国際、全地球スケールにわたる様々なスケールの認識 b 地理的思想の理解を発展させるための諸スケール間のつながり
相互関係	a 場所間における、社会的・経済的・環境的・政治的関係の探究 b あらゆるスケールでの変化の相互関係の理解
自然的プロセスと人文的プロセス	a 自然界や人間界での一連のできごとや諸活動が、いかに場所・景観や社会における変化に影響を及ぼすのかについての理解
環境の相互作用と持続可能な開発	a 環境の自然的／人間的次元が相互に関連し合い、どのように環境の変化に影響をあたえるのかについての理解 b 持続可能な開発が、環境の相互作用や気候変化に与える影響をとらえる生徒の能力開発
文化の理解と多様性	a 彼らの社会と経済を理解させるための人、場所、環境、文化の間の違いと類似性についての正しい理解 b 人々の価値や態度がいかに異なり、社会問題、環境問題、経済的・政治的諸問題にどのような影響を及ぼすかについて正しい理解と、それらの問題に対して、自分たちの価値や態度を発展させること

(文献(3)をもとに筆者作成)

は十分に研究されていないことが挙げられる。荒井の研究<sup>(8)</sup>が示唆するように、外国研究の成果を実践レベルで生かそうという発想に立つならば、授業開発に資する具体的な内容を明らかにする必要がある。例えば、どのような内容を、どのような方法（指示・発問を含む）で指導展開していけばよいのか、カリキュラム及び単元レベルにおける内容構成論を解明した研究成果が求められよう。このような成果は、わが国のそれとの比較材料や改善の方向性を示すことができる点で、教科書研究にも寄与することが期待される。本研究では分析対象として、『ナショナル・カリキュラム地理』の内容を忠実に反映しているという評価を受け、検定制度の無い英国においてベストセラーとなった中等地理テキストブック『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズ（Nelson Thornes 社）を手がかりとする<sup>(注3)</sup>。その際、分析対象単元として産業を学習対象とした「産業学習」に着目する。その理由は3つある。

第1に、産業を対象とした学習が、生産・流通・消費という社会生活の基本構造を認識させるものであり、政治、経済、社会、地理、歴史といった主要な社会諸科学の研究成果を反映しやすく、社会事象間の関係の認識を可能にするがゆえに社会科学学習の中核に位置付く価値を持っていると捉えられているからである<sup>(9)</sup>。わが国の社会科教育において産業を対象とした学習は、一般に産業学習と呼ばれ、社会科教育の中でもとりわけ地理教育の一領域として捉えられている<sup>(10)</sup>。その意味は、広義に小学校第5学年及び中学校地理的分野で学習する内容と捉えられている。具体的に小学校第5学年では、農業・水産業、工業、情報通信産業の学習を通じて、我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解することが、一方、中学校地理的分野では、「世界の諸地域」、「世界と比べた日本の地域的特色」、「日本の諸地域」の学習において、産業が考察の一視点として取り上げられ、世界の諸地域や日本の国土、日本の諸地域の特徴を理解す

ることが目指されている<sup>(注4)</sup>。産業は、社会的な分業として行われる財貨及びサービスの生産又は提供に係わるすべての経済活動であり、現代社会のしくみを理解する上で欠かせない内容である。先述したような特質を有する英国地理教育の「産業学習」に関する内容を明らかにすることは、わが国の産業学習の内容的妥当性を検討する上で有益な示唆を与えてくれるものと判断できる。

第2に、小学校第5学年の産業学習に比べ、中学校地理的分野の研究成果が著しく少ない傾向にあるからである。これまでわが国の社会科教育学研究の産業学習に関する主な研究は、小学校第5学年の学習指導要領及び準拠版教科書に基づく学習への批判及びその改善案として具体的な授業モデル開発が主流である。具体的には、産業従事者の工夫や努力を共感的に理解することを通じた常識的な見方・考え方に留まる学習の改善策として、学習内容の科学化を図り、社会科学的な見方・考え方の育成をめざす授業開発が中心に行われてきた<sup>(注5)</sup>。一方、中学校地理的分野に関しては、各地の産業と地名を結び付けて知識化する産業分布の学習に留まっていることや、取り上げる産業が第一次、第二次産業に偏っており、“生産の地理”になっていること等が指摘されてきたが、具体的な改善案に関しては提案レベルに留まっている<sup>(注6)</sup>。英国中等地理教育における「産業学習」を分析し、その内容構成を明らかにすることは、これまで具体的な改善案が提案されていない中学校地理的分野の現状を克服することが期待される。

第3に、社会科において産業を学ぶ意義や取り上げるテーマ、及び学習内容の妥当性が問われているからである。例えば草原は、これまで産業学習に関する研究の多くが学習指導要領の大枠を所与のものとしてきたことに言及しつつ、そもそも産業を学ぶ必要があるのか、取り上げるテーマとして農業・工業・情報通信産業を柱とする単元構成は妥当か、それに代わるテーマはないのか、

などの論点を不問にして付してきたきらいがあると指摘している<sup>(11)</sup>。一方、岡崎は、既に20世紀終盤に、産業構造においても就業者構造においても、いわゆる第一・二次産業が構成比の4割を切り、第三次産業が6割以上を占めるに至っているにもかかわらず、現行の学習指導要領では基本的には従来の産業分類にそった内容編成であり、わが国の産業の発展の姿を捉えることの困難さを指摘している<sup>(12)</sup>。社会が絶えず変化し、どのような産業も国際社会の中に位置づいている現実を踏まえれば、岩田が指摘するように国際化や情報化に対応した産業学習のあり方を検討することも重要であろう<sup>(13)</sup>。このような指摘や要望に応えていくためには、わが国のそれを対象化し、改めて他国のそれと比較・検討することが解決の糸口を探る上で有効であると判断できる。その比較対象として、英国の事例は適材である。

以上のような問題意識を踏まえ、本研究では英国中等地理教育における「産業学習」の学習展開を、『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズ(KS3)に手がかりに検討していく。具体的には、本シリーズにおける「産業学習」単元の学習内容を、『ナショナル・カリキュラム地理』の特質である科学的な社会認識形成と世界像形成の2つの視点から分析することを通して、内容編成論の特質とその意義について論じていく。

## II. 『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズにみられる「産業学習」の概要と実際

### 1. 『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズにみられる「産業学習」の概要

本稿では、第一次～第三次産業の各産業を個別に学習する構成となっている2006年度版『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズ(以下、本シリーズ)を分析対象とする。本シリーズは、第1巻『基礎』Y7(11-12歳)、第2巻『関連』Y8(12-13歳)、第3巻『相互作用』Y9(13-14歳)の全3冊(各巻7単元、全21単元)で構成されている。具体的に「産業学習」として該当する単元は、「農業」、「工業」、「観光」、「ファッション & スポーツ」の4つが挙げられる。

### 2. 『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズにみられる「産業学習」の実際

#### 2.1. 第一次産業の内容構成

第一次産業の単元「農業」における指導展開をまとめたのが表2である。表2は、左から小单元名、主要な学習内容、事例(地)・位置及び地理的スケール<sup>(注7)</sup>、主な学習活動、学習の結果として獲得される鍵概念(以下、鍵概念)、そして単元構成を小单元ごとに整理している。学習活動に関しては、岩田の知識論<sup>(14)</sup>を参考に学習活動を通して獲得される知識の質を「記述(記述的知識及び分析的知識を求める問い・または課題)」、「説明(説明的

知識及び概念的知識を求める問い・または課題)」、「判断(規範的知識を求める問い・または課題)」の3つに分類した。

#### 2.1.1. 単元構成

本単元は、「単元の主な学習内容及び意義の把握」、「国内における農業の種類と特色」、「農業が与える影響と変化」、「獲得した知識(概念)の活用」といった4つの段階で構成されている。

第1段階(小单元1)で子供は、本単元の主な学習内容(「英国における主な農業の種類」、「穀作農場や牧羊農場」、「英国における農業の分布パターン」、「農業が景観を変化させる過程」、「農業とそれらの影響の変化」)と農業を学習する重要性(農業についての知識は:「仕事を供給し、富の創出を手助けすること」、「私たちが食べる物とその食べ物に私たちが費やす費用が影響を与えていること」、「私たちの田園地方に対する見方を変えること」、「野生動物に影響を与えていること」)について把握する。

第2段階(小单元2～5の前半)では、まず英国における農業の主な種類が穀作農業、畜産農業、混合農業であることを確認した後、それぞれの農業が物理的要因と人的要因に依存しているため、農家はそれらの要因を踏まえて農業の種類や最適地を選択しなければならないことを学習する。次に、穀作農場や牧羊農場を事例に、それぞれの農業の特色を学習する。そして、英国における農業のタイプが物理的要因と人的要因によって、大きく穀作、畜牛、羊、混合、小作の5種類に分けられることを学習する構成となっている。

第3段階(小单元5の後半～7)は、まず1970年代中頃からEUの決断によって英国内でアブラナを栽培する農家が増加した事例をもとに、英国で一般的に見られる農業様式が様々な要因を背景に現在に至るまで変化し続けていることを確認する。次に、農業の発展によって、現在の景観が作られ、未だ変化し続けている事実をもとに、農業の発展によってもたらされる正負の影響について認識する。そして、現代農業がもたらした正負の影響と、負の影響を少なくするための政府の取り組みや、新たな農業の展開として一部の農家の人々が「観光農場」を始めている理由について学習する構成となっている。

第4段階(小单元8)では、最近、農園を購入した4組の農民にとって最も適している農業の種類を選択することを援助することが課題として提示される(MQ: 英国の異なる地域の農業はどのように変化するか? また、それはなぜか?)。子供はこの課題を解決するために、これまで理解・習得した知識や概念を用いて探究する展開となっている。具体的には、農業のどのような種類がその人(最近、農園を購入した4組)の農業に最も適しているのかを、一人一人の農民に提案する短い手紙(選んだ理由を含む)を書いたり、英国における農業の種類が異なる理由を地



表 2 第一次産業 単元「農業」の内容構成

小単元名	主要な学習内容	世界像形成の視点	社会認識形成の視点		単元構成		
		事例(地) (位置/地理的スケール)	主な学習活動 【記述○、説明◎、判断●】	鍵概念			
英国の農業はどのようなものか？	○本単元における主な学習内容、農業を学ぶ意義		○どのような農業が、写真Aのような田園地方の農業の姿を変化させたのか。 ○写真Bの農民は、どのような問題に直面しているのか。 ○写真Cでは何が起きているのか。あなたはこれについて良い面と悪い面は何かと思うか。 ○農民と買い物客の両方にとって、写真Dの市場の良さは何か。	場所	単元の主な意義の把握		
英国にはどのような種類の農業があるか？	○英国における主な農業の種類(穀作農業・牧羊・畜産農業・混合農業) ○それぞれの農業の種類が依存している物理的要因と人的要因 ○農業に影響を与える物理的問題と人的問題	穀作農業、牧羊農業、畜産農業、混合農業 【典型事例】 (国内/ローカル)	○以下の用語(穀作農業、畜産農業、混合農業)とそれを説明した文を組み合わせなさい。 ○図Eは、農業に影響を与える問題(物理的要因・人的要因)に関するいくつかの新聞の見出しを示している。下記の表Fをコピーし、正しい項目にEの見出しを分類しなさい。	自然のプロセスと人文のプロセス			
穀作農場とはどのようなものか？	○穀作農家の1年間の仕事 ○穀作農場の特色(場所、土地の起伏、土壌、気候、方法、機械の使用、収入源、困難)	東アングリシアのホーゾン農場 (国内/ローカル)	○(穀作)農家の1年間が示された図Dを見なさい。3つのうち、最も温かい月はどれか。 ○土地が小麦を育てる準備に使用されるのは、どの期間か。 ○小麦が成長するのは、どの期間か。 ○穀作農家の休暇に適した時期は、いつか、その理由も述べなさい。 ○穀作農業の主な特色を示す要因リストを作りなさい。その際、ここに示された見出し(場所、土地の起伏、土壌、気候、方法、機械の使用、収入源、困難)を参考にしなさい。	場所、空間、自然のプロセスと人文のプロセス	国内における農業の種類と特色		
牧羊農場とはどのようなものか？	○牧羊農家の1年間の仕事 ○牧羊農場の特色(場所、土地の起伏、土壌、気候、方法、機械の使用、収入源、困難)	湖水地方のバックサイド農場 (国内/ローカル)	○(牧羊)農家の1年間が示された図Dを見なさい。4つのうち、最も温かい月はどれか。 ○4つのうち、最も湿った月はどれか。 ○1月にはどれくらい雨が降るか。 ○羊が特別な食物を必要とするのはいつか、その理由も述べなさい。 ○牧羊の主な特色を示す要因リストを作りなさい。その際、ここに示された見出し(場所、土地の起伏、土壌、気候、方法、機械の使用、収入源、困難)を参考にしなさい。	場所、空間、自然のプロセスと人文のプロセス			
どの英国の農業様式とどのようなものか？	○英国における農業の分布パターン(北西部と南東部の違い) ○農業様式を変化させる要因	英国の農業分布のパターン (国内/ナショナル)  アブラナ農場 (国内/ローカル)	○農業の5つの種類は、地図Aに示されている。それぞれの種類と以下の説明(牛乳と肉用の動物を保持する、自給農業の形、作物を栽培する、作物を栽培し、動物を飼う、牧羊)の1つを組み合わせなさい。 ○地図Dの数字と下記の農業の種類(羊、畜牛、混合、穀作、小作)を組み合わせなさい。一部は数回使われるかもしれない。地図Aが参考になるだろう。 ●あなたは穀作農家で、もはや助成金を受け取ることができなくなると言われたとしたら、どうするか(それでも作物を栽培し続ける、芝生として一部の土地を休耕地にする、数ヘクタールの土地に木を植える)。その理由も挙げなさい。	場所、空間、スケール、自然のプロセスと人文のプロセス			
農業は景色をどのようにに変化させたか？	○農業の発展が景観に与えた影響 ○垣根の長所と短所 ○土壌浸食によってもたらされる影響	景観を変化させた農業地域 【典型事例】 (国内/ローカル)	○Aの2つの絵における異なる点を見つけなさい。以下のそれぞれに1つの違いを見つけようとしなさい(農場の規模、農家の建物、機械、垣根、湿地)。 ●クラスメイトとペアになりなさい。そのうち、1人は農家で、もう1人は環境保護論者になりなさい。もし、あなたが農民であるならば(そもそもそこに垣根を植えた理由、それを今、外した理由)を聞きなさい。 ●もし、あなたが環境保護論者であるならば、あなたは垣根を保持することが非常に重要であると感じる理由を説明しなさい。二人とも写真Cが助けになるはずである。 ◎土壌とはどのような意味なのか発見しなさい。東イングランドの一部は、強い風が吹いた時、土壌によってなぜ影響を受けたのか。風によって失うものとは別に、他に農家もどのように土壌を失う可能性があるか。	場所、空間、自然のプロセスと人文のプロセス	農業が与える影響と変化		
農業はどのように変化したか？	○現代の農業の特色 ○現代の農業がもたらしている影響 ○一部の農民が観光農場を行う理由	観光農場【典型事例】 (国内/ローカル)	◎グラフCを見なさい。それぞれのグラフによって示される農業の変化を説明しなさい。 ◎トラクターの数と農場で働く人々の数の間の関係性とは何か。あなたは、この関係性の原因をどう考えるか。 ◎あなたの地元新聞に2つの手紙を書きなさい。それぞれの手紙は、1頁の半分ぐらいの長さまで書かなければならぬ。最初の手紙では、食物を生産したり、生計を立てたりすることがますます難しくなっていると心配する農民の見方を示しなさい。 ◎次の手紙では、環境に損害を与えない方法を使用する農家の人々を好む都会の人々の見方を示しなさい。 ◎なぜ、農場で働く人たちは自らの農場で観光活動を開発しているのか。 ○農場で可能な観光活動の一部を示すために星形の図を描きなさい。	空間、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発			
農業に関する調査	○最近、農園を購入した4組の農民に適した農業の種類を気候、土壌、輸送、政府の方針などの要因を踏まえて提案する。	スコットランド北西部の農場、スコットランド北東部の農場、イングランド南西部の農場、イングランド南東部の農場 (国内/ローカル)	◎あなたは、ここで地図、文章を使う必要がある。星形の図またはリストも参考にしなさい。初めに、慎重に調査課題を確認し、あなたが発見すべきことを詳しく説明しなさい。 ○主な農業の種類と各農業の異なる必要条件について記述しなさい。 ◎いくつかの地域が、他の地域より特定の農業の種類に適するように、農業の影響は場所によってどのように変化するのか、その要因について説明しなさい。 ○4つの異なる農場の主な特色について簡単に記述しなさい。また、それらが位置している場所を地図上に示しなさい。 ●気候という要因に基づいて、それぞれの農場に最も適している農業の種類を決めなさい。 ●次に、気候の他に農業に必要な要因を検討し、あなたが選択する農場がそれでも適当かを確認しなさい。その際、表Aと図Bを参考にしなさい。 ◎農場の事実表Dのコピーを作ってそれを完成させ、あなたが選択した農業を説明しなさい。 ◎次に、あなたはあなたが取り組んだ課題と調査課題への解答を慎重に見なければならぬ。ここでは2つの課題に取り組む。第一に、あなたは、農業のどのような種類がその人の農業に最も適しているかを、一人一人の農民に提案するために短い手紙を書かなければならぬ。その際、あなたが選んだ理由も述べなさい。 ◎第二に、あなたは英国における農業の違いの理由を説明し、その理由を提案しよう。これは地図に書き、印を付けたりすることを含んでいる。	場所、空間、自然のプロセスと人文のプロセス	獲得した知識(概念)の活用		

(Waugh, D., Bushell, T. (2006) Farming, NEW KEY GEOGRAPHY Connections. Nelson Thornes, pp.26-43.より筆者作成)



図などにまとめて説明させたりする作業を行う。これらの活動を通して子供たちは、主として「場所」や「空間（農業立地）」等の鍵概念を活用して合理的に判断することを迫る構成となっている。

### 2.1.2. 世界像形成としての内容構成

本単元を世界像形成の視点から整理すると、国内における主要な農業の特色を場所、土地の起伏、土壌、気候、方法、機械の使用、収入源、困難等の視点から分析的に検討したり、その結果として明らかになる農業分布のパターンを概観したりする学習を通して、農業を手段として①産業としての農業の位置と特色、②農業が行われている地域的特色、③農業を視点とした国土（英国）の特色（傾向）を認識させる構成となっている。具体的には、種類の異なる複数の農業をローカル・スケールで捉えさせた後、さらにナショナル・スケールで概観させることを通して、農業が盛んな地域と国土の2つの特色を認識させる構成となっている。

このような単元構成を世界像形成の視点からまとめると「農業を視点とした英国地誌学習」と位置づけることができる。

### 2.1.3. 社会認識形成としての内容構成

本単元を社会認識形成の視点から整理すると、学習活動を通して獲得される知識の質については、国内における農業の種類や各農場の特色に関しては「記述」を求める問いや課題が、農業が与える影響や変化に関しては「説明」を求める問いや課題が設定されている。これらの知識は、最終小単元において、最近、農園を購入した4組の農民にとって最も適している農業の種類を「判断（意思決定）」させる場面で活用を迫る展開となっており、本単元では「英国における農業の最適地（農業立地）」が学習の中心となっている。一方、学習の結果として獲得される鍵概念に関しては、東アングリアのホーソン農場や湖水地方のベックサイド農場の自然的・人文的理解に関する「場所」、それらの場所に種類の異なる農業が立地している理由及び英国における農業分布のパターンに関する「空間」をはじめ、6つの鍵概念の獲得をめざす構成となっている。

このような単元構成を社会認識形成の視点からまとめると、「空間（農業立地）」を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』と位置づけることができる。

### 2.1.4. 本単元の全体構成

単元「農業」では、英国の主要な農業を教材内容として用いることを通して、世界像形成の視点からは「農業を視点とした英国地誌学習」として、社会認識形成の視点からは「空間（農業立地）」を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』という二重構造の構成になっていた。本単元ではこれら2つの視点に基づき

内容を構成することで、全体を通して英国の農業を事例にして自国の主要な農業と国土の特色、及び「空間（農業立地）」をはじめとする諸概念の獲得とその活用能力を育成する学習となっているのである。

## 2.2. 第二次産業の内容構成

第二次産業における単元「工業」の指導展開を表2と同様にまとめたのが表3である。

### 2.2.1 単元構成

本単元は、「単元の主な学習内容及び意義の把握」、「国内における工業の種類と特色」及び「英国の工業における最適地と変化の要因」、「獲得した知識（概念）の活用」といった3つの段階で構成されている。

第1段階（小単元1）で子供は、本単元の主な学習内容（「第一次産業と第二次産業と第三次産業の違い」、「産業にとっての最適地を選択する方法」、「産業にとっての理想的な場所が変化する過程」、「鉄鋼業と自動車産業とハイテク産業」と産業を学習する重要性（産業を学習すると役立つこと：「自身に最も適している仕事の種類を選択する時」、「産業が特定の場所に位置する理由を理解する時」、「一部の産業が閉鎖またはある地域から移転する理由を理解する時」）について把握する。

第2段階（小単元2～8）では、まず人々が行う経済活動には第一次～三次産業の3タイプがあり、それぞれ特色が異なることを確認した後、それぞれの産業の就業者人口は時代と共に変化していることを学習する構成になっている。次に、鉄鋼業や自動車工業、ハイテク産業を事例に、それぞれの工場の最適地が原材料、輸送、労働力、エネルギー源、市場、地価などの要因に依存していることや、工業の種類によって特色が異なることを確認するとともに、時間の変化とともに最適地も変化し続けていることを学習する構成になっている。

第3段階（小単元9）では、国内に新しい自動車工場を建設するという想定を踏まえ、候補地として挙げられている10箇所の情報を分析的に検討し、最適地を提案することが課題として提示される（MQ：新しい自動車工場にとって最適地はどこか？）。子供はこの課題を解決するために、これまでの学習でしてきた獲得した知識や概念を用いて探究することとなる。具体的には、沿岸部のニューポートや内陸部のバーナストーン等候補地として挙げられている10箇所の用地を「用地の規模」、「用地の質」、「高速道路へのアクセス」、「港へのアクセス」、「空港へのアクセス」、「熟練労働者への確保」、「良い労働環境」、「利用可能な政府援助」、「魅力的な田園地方へのアクセス」の8項目を0（不十分）～4点（すばらしい）の5段階で評価することを通して、最適地を検討する作業を行う。これらの活動を通して子供は、主として「場所」や「空間（工業立地）」等の鍵概念を活用して合理的に判断する

表 3 第二次産業 単元「工業」の内容構成

小単元名	主要な学習内容	世界像形成の視点	社会認識形成の視点		単元構成		
		事例(地) (位置/地理的スケール)	主な学習活動 【記述○、説明◎、判断●】	鍵概念			
産業とは何か？	○本単元における主な学習内容、農業を学ぶ意義		○写真Aの中で産業を場所に引き付けたものは何か。 ○もし、あなたが働くとしたらABCに示された職場の中でどれを選ぶだろうか(最も働きたいのは…最も働きたくないのは…)。 ○どのような産業が写真Bで示されているか。これは他の産業とどのように異なるか。	場所	英国の工業における最適地と変化の要因 国内における工業の種類と特色	単元の主な学習内容及び留意点	
産業の種類にはどのようなものがあるか？	○産業の種類と特色(第一次産業、第二次産業、第三次産業) ○英国の就業構造の変化	第一次産業、第二次産業、第三次産業 【典型事例】	○以下の用語(第一次産業の活動、第二次産業の活動、第三次産業の活動、天然資源)とそれを説明した文を組み合わせなさい。 ○四角Eの仕事リストを見なさい。それらを第一次産業の活動、第二次産業の活動、第三次産業の活動分類しなさい。 ○あなたの学級のそれぞれの生徒の家族の仕事を見つけ、調査を完成させなさい。 ○それらを第一次、第二次、第三次産業を分類しなさい。 ○あなたの調査結果を示すために棒グラフや円グラフのどちらかを描きなさい。 ◎あなたのグラフの示すものを説明しなさい。	相互関係			
工場と土地とはどのようなものがあるか？	○工場の最適地とその要因(原材料、輸送、労働力、エネルギー源、市場、地価など) ○繊維工場の最適地とその要因	ヨークシャー地域とランカシャーの毛織物工場(国内/ローカル)	○下記のはじめと終わりを合わせなさい(原材料、動力、労働力、市場、輸送)。 ◎あなたが住んでいる場所に近い工場か、この頁で説明されている毛織物工場のどちらかを選択しなさい。参考として図Cを使用し、その工場がそこで、なぜ成長したのかを説明しなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス、環境の相互作用と持続可能な開発			
最適地を鉄鋼産業が選ぶ理由	○19世紀の製鉄所の最適地とその要因 ○20世紀以降の製鉄所の最適地とその要因 ○英国の最も大きな製鉄所がトールボット港に立地している理由	英国の鉄と炭田の位置 トールボット港(国内/ナショナル、ローカル)	○図Eのコピーを作り、下記の語(橋、石炭、鉄鉱石、石灰岩、鉄鋼、製鉄所、船、列車)を正しいボックスに入れなさい。2つはあなたを助けるために既に記入してある。 ○図Fの中に書かれた文章のうち、どの4つが正しいか選択しなさい。 ◎トールボット港が鉄鋼所にとって良い場所である理由を示すために星形の図を描きなさい。図Gの見出しを使いなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス、環境の相互作用と持続可能な開発			
産業が変化するための合理的な用地はどのようなものがあるか？	○過去と現代の鉄鋼業の分布 ○産業にとっての最適地を变化させる要因	鉄鋼業の変化【典型事例】(国内/リージョナル)	◎1820年に鉄メーカーは図Aに示す場所に建てることを決めた。メーカーは、W、X、Y、Zのいずれかを選択しなければならなかった。選択する時に考えなければならなかった要因の一部は、用地は表Cに列挙した。メーカーは結局、鉄鋼所の用地Wを選択した。なぜ、その用地が選んだのか、自分で表を完成させなさい。 ○注意深く図AとボックスBを見なさい。用地の第一要因に関して、用地ごとに得点を与えなさい。他の用地の要因も同じようにしなさい。進めやすいように、一部は既に記入している。 ◎得点を合計しなさい。合計点の最も高いものが最適地である。それはWでなければならぬ。Wが1820年の鉄鋼所にとって最適地である理由を4つ挙げなさい。 ○Wの工場は1990年までにもう利益を上げられなくなっていた。それはあまりに小さかったため、石炭と鉄鉱石は無くなった。それらの原材料は、当時、船便で海外から運ばれていた。工場は拡張するか、新しい鉄鋼所用地ZかSのどちらかに建設するか、のどちらかが決められた。ボックスBの指標を用いた表を完成させなさい。 ●あなたはWを拡大することに決めたか。それとも用地ZまたはSの一つを選択することに決めたか。 ◎あなたが決めた理由を短い文章で書きなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス、環境の相互作用と持続可能な開発			
最適地を自動車産業が選ぶ理由	○自動車産業の最適地とその要因 ○TOYOTAがバーナストーンを選んだ理由	自動車組立工場の位置 バーナストーン(国内/ナショナル、リージョナル)	○Dに書かれた6つの文のうち、4つは正しい。正しいものを全て書きなさい。 ◎自動車工場は、一般向けに大都市の近くに立地している。これに対し、少なくとも2つの理由を与えてなさい。 ◎「ジャスト・イン・タイム」システムの長所と短所とは何か。 ◎バーナストーンが自動車工場にとってより立地である理由を説明しなさい。調査ファイルEの項目を使いなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス			
ハイテク産業とはどのようなものがあるか？	○ハイテク産業の特色 ○ハイテク産業がサイエンスパークやビジネスパークの都市周辺に立地している理由	サイエンスパークやビジネスパークの都市周辺 【典型事例】(国内/ローカル)	○ハイテク産業とは何か。 ○あなたが先週使用したハイテク製品を5つ挙げなさい。 ○表Dを完成させ、サイエンスパークとビジネスパークの違いを明らかにしなさい。下記の組からあなたの解答を選択しなさい(a:多い/とても少ない、b:大学に繋がっている/大学に繋がっていない、c:ハイテク会社/ハイテク会社、店、ホテル、観光施設)。 ◎写真Bと図Cを使用して、なぜ、ハイテク会社はサイエンスパークに立地しなければならないのか、その理由を6つ挙げなさい。その際、あなたは以下の項目について言及しなければならない。 ○会社同士が同じ場所にあることから生じる2つの欠点を挙げなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス、環境の相互作用と持続可能な開発			
ハイテク産業をどこに位置させるか？	○斜陽産業と成長産業の違い ○ハイテク産業の立地の特色とその要因	ハイテク産業の立地(国内/リージョナル)	○斜陽産業と成長産業の違いとは何か。 ○絵Eは写真Bのスケッチである。スケッチの大きなコピーを作りなさい。色鉛筆で薄く色分けしなさい。住宅地域を赤色、産業地域を茶色で、主要道路を黄色、田園地域を緑色で塗りなさい。 ○その地域をハイテク工場の最適地にしている特色を挙げなさい。そして、それぞれを10~20語で説明しなさい。 ◎M4道路がハイテク産業にとってよい場所である理由を説明するために地図Dの情報を使いなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス			
工業立地に関する調査	○国内に新しい自動車工場を建設するという想定を踏まえ、候補地として挙げられている10箇所の情報を分析的に検討し、最適地を提案する。	新しい自動車工場の候補地(国内/ナショナル)	○最適地を選択する方法を説明しなさい。 ○可能性のある用地を記述しなさい。 ◎右図のような図を描き、それぞれの要因におよそ10語の説明を加えなさい。その際、60頁の図が参考になるだろう。 ○各欄の得点を合計しなさい。合計が最高点のものが最適地となる。 ○それらの合計点順に10カ所の用地を並べなさい。最高位をリストの一番上に置きなさい。 ◎3つの最適地はどれか。それぞれの主な長所を挙げなさい。 ●あなたは3つのどれかを選択するか。この用地が他の2つより良い理由を提案しなさい。 ◎あなたの好ましいと思う用地が利用できなかったら、その他の用地は満足だったか。またその理由も述べなさい。 ●下の写真の簡単なスケッチを描きなさい。あなたの選択した方が、自動車工場にとって良い用地である理由を説明するために下の四角に情報を書き加えなさい。61頁及び完成したあなたのリストが手助けとなるだろう。 ◎あなたの選んだ用地について本単元に関するレポートを書きなさい。レポートにおいて、用地の主な特色を記述し、それが自動車工場にとって良い場所である理由を説明しなさい。	場所、空間、相互関係、自然的プロセスと人文的プロセス			

(Waugh, D., Bushell, T. (2006) Industry, NEW KEY GEOGRAPHY

Nelson Thornes, pp.44-63.より筆者作成)

ことを迫る構成となっている。

### 2.2.2. 世界像形成としての内容構成

本単元を世界像形成の視点から整理すると、国内における主要な工業の立地を原材料、輸送、労働力、エネルギー、市場、地価等の視点から分析的に検討したり、その特色を複数の地理的スケールを用いて捉えさせたりする学習を通して、工業を手段として①産業としての工業の位置と特色、②各産業が立地している地域的特色と依存している立地要因、③工業を視点とした国土（英国）の特色（傾向）を認識させる構成となっている。例えば、小単元6では、英国の人口が多い場所と大きな自動車組立工場の立地との関係をナショナル・スケールで投影した地図で確認した後、その典型としてリージョナル・スケールでバーナストーンを事例に、労働力の確保の他に、原材料、電力、市場との距離や輸送、用地等の要因を踏まえて立地が決定されていることを認識させる展開となっている。このように、単元「工業」では、国内の主要な工業の特色を複数の地理的スケールを用いて捉えさせ、工業が盛んな地域と国土の2つの特色を認識させる構成となっている。

このような単元構成を世界像形成の視点からまとめると「工業を視点とした英国地誌学習」と位置づけることができる。

### 2.2.3. 社会認識形成としての内容構成

本単元を社会認識形成の視点から整理すると、学習活動を通して獲得される知識の質については、国内における工業の種類や各工業・工場の特色に関しては、「記述」を求める問いや課題が、各工業・工場の最適地や最適地を変化させる要因に関しては「説明」を求める問いや課題が設定されている。これらの知識は、最終小単元において、国内に新しい自動車工場を建設する上で、候補地として挙げられている場所の中から最も適している場所を「判断（意思決定）」させる場面で活用を迫る展開となっており、本単元では「英国における工業の最適地（工業立地）」が学習の中心となっている。一方、学習の結果として獲得される鍵概念に関しては、トールボット港やバーナストーン等の自然的・人文的理解に関する「場所」、これらの場所に種類の異なる工業が立地している理由及び英国における各工業の分布パターンに関する「空間」をはじめ、単元「農業」と同様、6つの鍵概念の獲得をめざす構成となっている。

このような単元構成を社会認識形成の視点からまとめると「空間（工業立地）を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』」と位置づけることができる。

### 2.2.4. 本単元の全体構成

単元「工業」では、英国の主要な工業を教材内容として用いることを通して、世界像形成の視点からは「工業

を視点とした英国地誌学習」として、社会認識形成の視点からは「空間（工業立地）を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』」という二重構造の構成になっていた。本単元ではこれら2つの視点に基づき内容を構成することで、全体を通して英国の工業を事例にして自国の主要な工業と国土の特色、及び「空間（工業立地）」をはじめとする諸概念の獲得とその活用能力を育成する学習となっているのである。

## 2.3. 第三次産業の内容構成

### 2.3a. 単元「観光」

第三次産業は「観光」と「ファッション＆スポーツ」の2つの単元で構成されている。ここでは、単元ごとに分析していきたい。まず、単元「観光」の指導展開を表2と同様にまとめたのが表4である。

#### 2.3a.1. 単元構成

本単元は、「単元の主な学習内容及び意義の把握」、「成長産業としての観光」、「国立公園の運営と対立」、「観光が環境を変化させる過程」、「獲得した知識（概念）の活用」といった5つの段階で構成されている。

第1段階（小単元1）で子供は、本単元の主な学習内容（「観光産業」、「観光が引き起こす問題」、「国立公園の運営と対立」、「様々な種類の休暇」、「観光が環境を変化させる過程」と観光を学習する重要性（観光を学習すると役立つこと：「休日にどこへ行くかを選択する時」、「もっと楽しい休日を過ごしたい時」、「観光に関わる仕事について知りたい時」、「観光を取り巻く環境を管理する必要性について理解を深める時」）について把握する。

第2段階（小単元2～3）では、まず第三次産業は、人々にサービスを提供する部門であり、観光産業で働く人々は、第三次産業部門に含まれることや、観光は今日、世界で最も成長が速い産業の1つであり、この産業によって、富がもたらされ雇用が生まれ、現地の人々には進歩した施設が提供されることを確認する。しかし一方で、地域によっては観光事業が人々の間に問題を巻き起こしたり、環境破壊を起こしたりすることがあるため、観光地の環境について計画・管理する場合には、それらの点に注意する必要があることを学習する構成となっている。

第3段階（小単元4～5）では、まず国立公園を事例に、国立公園の目的とその目的を達成するために国立公園管理局が観光客のために行っている取り組みについて確認する。一方、異なる人々の要求によって魅力的な地方で対立が引き起こされることもあり、国立公園局の注意深い管理はその問題の軽減の手助けとなるよう運営していることについても学習する構成となっている。

第4段階（小単元6～9）では、まず海外旅行が以前よりお手ごろで簡単に世界中どこでも行けるようになったが、行き先は慎重に決める必要があることを確認した上



表 4 第三次産業 単元「観光」の内容構成

小単元名	主要な学習内容	視点1：世界像形成	視点2：社会認識形成		単元構成
		事例（地） （位置・地理的スケール）	主な学習活動 【読書○、説明○、判断●】	鍵概念	
観光とは何か？	○本単元における主な学習内容、農業を学ぶ意義		○写真ABCを見て、自然風景を描写しなさい。また、観光によって、この地域がどのように変化したのか描写しなさい。 ○上記の4つの場所の内、あなたが最も訪れてみたい場所、最も訪れたくない場所、静かに過ごしたい場所、活動的に過ごしたい場所を挙げなさい。また、それぞれ選んだ理由も述べなさい。	場所	単元の主な学習内容及び意義の把握
観光産業とは何か？	○第三次産業における観光産業の特色 ○観光産業がもたらす恩恵	第三次産業部門に含まれる職種 【典型事例】	○下記の事項を第一次産業、第二次産業、第三次産業に分類しなさい。それぞれにつき、2項目ずつある。 ○観光産業について事実を4つ書きなさい。 ○図Bの中で、最もしてみたい仕事はどれか。その理由も述べなさい。 ○今まで、あなたが助けてくれた観光産業の人の職務を列挙しなさい。それぞれが、どこでいつ起きたことを述べなさい。	スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス	
観光に起きている問題とは何か？	○観光事業が拡大した理由 ○観光事業によってもたらされた悪影響 ○悪影響を防いだり、軽減したりするための対策	観光事業によってもたらされた悪影響 【典型事例】	○観光事業が拡大した理由を3つ挙げなさい。 ○地域によっては、観光事業が都市に反する結果をもたらした。その6つの理由が50頁に挙げられている。表Dを写して、それぞれの理由を正しい場所に記入しなさい。 ○どの4つが、農家の人々にとって最も問題となっている原因か。それぞれにその理由を挙げなさい。 ○どの4つが、観光客にとって最も観光地を台無しにしているか。それぞれにその理由を挙げなさい。 ●絵Cの中に示されている問題のうち、2つを選びなさい。そしてその問題を防ぐためにどうすべきか、また少なくともその悪影響を軽減するためにどうすべきか、それぞれ答えなさい。	空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性	成長産業としての観光
国立公園とは何か？	○国立公園の目的 ○国立公園管理局が観光客の公園利用促進のためにしている対策	イングランド及びウェールズの国立公園 （国内／ローカル、ナショナル）	○最初に指定された国立公園の名称を挙げなさい。 ○あなたが住んでいる場所に1番近い国立公園はどこか。また、どれくらい離れているか。 ○高原地帯にある国立公園の中で、1番多く観光客が訪れると考えられる公園はどこか。その理由も挙げなさい。 ○国立公園とは何か。 ○国立公園管理局が行っている観光客の公園利用促進のための対策を4つ挙げなさい。 ○下記の特色を矢印で示し、名称を書き入れなさい（山、丘、湖、森、農地、住宅、公園案内所）。 ○写真Bは典型的な国立公園である。この公園について説明しながら、友達に手紙を書きなさい。	場所、空間、スケール	
対立とは何か？	○英国の国立公園における土地所有権 ○国立公園で生じている対立	国立公園【典型事例】 （国内／ローカル）	○対立とは何か、説明しなさい。 ○対立は国立公園において人々の間に様々な形で引き起こされる。絵Bにはこのような人々が数名描かれている。これらの絵と1から6の意見を正しく組み合わせなさい。 ○国立公園局が所有している土地もどれくらいか。 ○観光客と対立を起こす可能性が最も高い土地所有者は誰か。また、その理由も挙げなさい。 ●この演習は、他の人とともに取り組む必要がある。以下の項目（モトクロス、モーターボートレース、マウンテンバイク、高速道路、レジャーパーク）が国立公園で許可されるべきかどうか話し合いなさい。また、自分の回答に対する理由も書きなさい。	空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性	観光をもたらし影響と持続可能な観光の実現
観光客はどこへ行くのか？	○人気観光地の観光客数と観光収入 ○旅行先を選択する際の留意点	世界の観光地と有名観光地 （国外／グローバル、リージョナル）	○どの地域がこれまで一番、観光されているか。 ○このように人気がある理由について思い浮かぶ全てのものを挙げなさい。 ○休日の行き先としてケニアの観光地を6つ以上挙げなさい。 ○絵Eの人々を見なさい。彼らにとって一番適切なと思う休日を選びなさい。また、その理由も挙げなさい。 ○もし選べるのなら、あなたは世界のどこに行つて、何がしたいか。また、その理由も挙げなさい。	場所、スケール	
マヨルカの楽園？休日	○マヨルカ島の特色 ○観光産業がマヨルカ島にもたらした影響	マヨルカ島 （国外／ローカル）	○下記Eの題名に従って事実表を作りなさい（島の名前、スペインからの距離、人口、首都、天気、大きさ、物理的な特色、植物、1年間の観光客数）。マヨルカ島について何か他に興味をそえられることがあればそれも加えなさい。 ○マヨルカ島への観光についての良い影響を書き出しなさい。 ○マヨルカ島の観光によって生じた問題を6つ以上挙げなさい。 ○マヨルカ島でどうやって一週間を過ごすかを計画しなさい。 ○マヨルカ島についての小さなパンフレットを作りなさい。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性	観光が環境を変化させる過程
フロリダの夢？	○ディズニー・リゾートの特色 ○フロリダ・ディズニーリゾートがオーランド付近に建設された理由 ○観光産業がフロリダにもたらした影響	フロリダ （国外／ローカル）	○最初のディズニーランドが開園したのはどこで、それはいつのことか。 ○その他のディズニーリゾートの場所の名前を3ヶ所挙げなさい。 ○ウォルト・ディズニーのアイデアとは何だったか。 ○地図Aを見なさい。フロリダにある2つの空港の名前は何か。 ○空港とディズニーリゾートは、どの高速道路で結ばれているか。 ○フロリダ地域のそれぞれの位置要因の例を図に記入しなさい。 ○フロリダのディズニーリゾートへ行く際のあなたの家族旅行の計画を立てなさい。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発	
アルプス山脈・冬の不思議な国？	○シャモニーの特色 ○観光産業がシャモニーにもたらした影響 ○悪影響を防いだり、軽減したりするための対策	シャモニー （国外／ローカル）	○アルプス山脈はどこにあり、この国にあるか。 ○ロンドンからシャモニーまでどれくらい離れているか。 ○シャモニーの主な魅力について、該当するものを写真BとCの中から挙げなさい。 ○シャモニーの観光産業に関連する仕事を少なくとも8つ挙げなさい。 ○表Eをコピーし、観光によってもたらされる良い影響と良くない影響を選びなさい。 ●問題点の中から1つを選び、それを改善するために何ができるのかを提案しなさい。 ○シャモニーをスキースポット地として広告する観光パンフレットの1頁をデザインしなさい。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性	獲得した知識（概念）の活用
観光に関する調査	○ある旅行会社が湖水地方の国立公園の観光事業開発に興味を示したという想定を踏まえて、予測される渓谷の変容、観光によってもたらされる影響、持続可能な観光を実現するための方策を提案する。	湖水地方の国立公園 （国内／ローカル）	○湖水地方国立公園の立地場所を示し、現在のこの渓谷の主な特色を説明しなさい。その際、下の写真と反対側の頁の絵の情報も使いなさい。 ○この渓谷が観光開発に適した場所であると思われる理由を説明しなさい。 ○自分の提案について良く考えて、調査質問に答えなさい。質問は、「どのようにして」で始まっている。このため、自分の考えを記入するとともに、その説明をする必要がある。最初、その渓谷が観光開発された場合、その渓谷がどのように変化するのかについて、概略を書きなさい。 ○次に、その開発について、長所と短所のリストを書きなさい。その際、地域住民、旅行者、および環境について考慮をする必要がある。 ●その渓谷を現状のまま放置するべきか、それとも提案どおりに開発するべきなのかについて、最後に決定することも可能である。開発することを選んだ場合には、開発による良い影響を伸ばし、悪い影響を低減させるために、どのように計画し、適用すれば良いだろうか。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性	

(Waugh, D., Bushell, T. (2006) Tourism, NEW KEY GEOGRAPHY Interactions. Nelson Thornes, pp.46-67.より筆者作成)

で、世界的に有名な観光地についてそれぞれの観光地の特色や観光によってもたらされる影響、立地要因、持続可能な観光を実現するために留意すべきことなどを学習する構成となっている。

第5段階（小単元10）では、ある旅行会社が英国北部地域にある湖水地方国立公園内（盆地）に観光事業の開発に興味を示したという想定を踏まえ、この開発を計画すること、また開発によって現地がどのように変化し、どのような影響が出るのかを予測し、提案することが課題として提示される（MQ：観光事業の開発は、素晴らしい景観の名所をもつ地域にどのような影響を与えるのか？）。子供はこの課題を解決するために、これまで獲得した知識や概念を用いて探究することとなる。具体的には、パートナーや少人数のグループで協力して、計画地の場所の特色を調査したり、お互いの意見を交流して構想した開発計画の利点と欠点を議論したりする。その上で、観光開発に対する地元住民、公園保護局の職員、観光者らの主張の違いを分析的に検討することを通して、立場の異なる三者が納得する（持続可能な観光を実現）計画を提案する。これらの活動を通して子供は、主として「環境の相互作用と持続可能な開発」、「文化の理解と多様性」等の鍵概念を活用して合理的に判断することを迫る構成となっている。

### 2.3a.2. 世界像形成としての内容構成

本単元を世界像形成の視点から整理すると、世界各国の有名な観光地の特色を自然環境、物理的環境、立地、距離、人口、観光客数等の視点から分析的に検討したり、その結果として明らかになる各観光地の相違点を比較したりする学習を通して、観光を手段として①世界の有名観光地の位置と特色、②各観光地に地域的特色、③観光を視点とした世界の特色を認識させる構成となっている。具体的には、世界の観光地ベスト10や、地域ごとの外国人観光客数等、グローバル・スケールで世界の人気観光地を捉えさせた後、種類の異なるいくつかの観光地をローカルまたはリージョナル・スケールで具体的に学習することを通して、世界各地の観光（地）の現状を複数の地理的スケールを用いて認識させる構成となっている。このように、単元「観光」では、世界の有名観光地の特色を複数の地理的スケールを用いて捉えさせることを通して、観光が盛んな地域（観光地）と世界の2つの特色を認識させる構成となっている。

このような単元構成を世界像形成の視点からまとめると「観光を視点とした世界地誌学習」と位置づけることができる。

### 2.3a.3. 社会認識形成としての内容構成

本単元を社会認識形成の視点から整理すると、学習活動を通して獲得される知識の質については、世界の有名観光地の種類と特色に関しては「記述」を求める問いや

課題が、観光事業が拡大した理由や観光がもたらす影響及び変化の要因に関しては「説明」を求める問いや課題が設定されている。これらの知識は、最終小単元において、英国北部地域にある湖水地方国立公園内（盆地）に観光事業を展開した場合に想定される影響と予測される変化及び持続可能な観光を実現するための方策について「判断（意思決定）」させる場面で活用を迫る展開となっており、本単元では「観光がもたらす影響と持続可能な観光の実現」が学習の中心となっている。一方、学習の結果として獲得される鍵概念に関しては、英国の国立公園やマヨルカ島、フロリダ等の自然的・人文的理解に関する「場所」、それらの場所にたくさんの観光客が訪れる理由やその結果としてもたらされる正負の影響及び持続可能な観光を実現するための取り組み等「環境の相互作用と持続可能な開発」をはじめ、7つ全ての鍵概念の獲得をめざす構成となっている。

このような単元構成を社会認識形成の視点からまとめると、「環境の相互作用と持続可能な開発を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』」と位置づけることができる。

### 2.3a.4. 本単元の全体構成

単元「観光」では、英国及び世界の様々な観光地を教材内容として用いることを通して、世界像形成の視点からは「観光を視点とした世界地誌学習」として、社会認識形成の視点からは「環境の相互作用と持続可能な開発を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』」という二重構造の構成になっていた。本単元ではこれら2つの視点に基づき内容を構成することで、全体を通して世界の有名観光地を事例にして世界の有名観光地の特色と観光がもたらす影響、及び「環境の相互作用と持続可能な開発」をはじめとする諸概念の獲得とその活用能力を育成する学習となっているのである。

### 2.3b. 単元「ファッション＆スポーツ」

次に、単元「ファッション＆スポーツ」の指導展開を2表と同様にまとめたのが表5である。

#### 2.3b.1. 単元構成

本単元は、「単元の主な学習内容及び意義の把握」、「ファッション産業がもたらす影響」、「スポーツ産業がもたらす影響」、「獲得した知識（概念）の活用」といった4つの段階で構成されている。

第1段階（小単元1）で子供は、本単元の主な学習内容（「グローバリゼーションと多国籍企業」、「世界的産業としてのファッションとスポーツ」、「発達段階が異なる国々の結び付き」、「スポーツ競技場にとっての最適地」、「新たな競技場が及ぼす影響」とファッションやスポーツを学習する重要性（ファッションやスポーツは私たちに何らかの形で影響を及ぼしており、地理でこのことを学習

表5 第三次産業 単元「ファッション＆スポーツ」の内容構成

小単元名	主要な学習内容	視点1：世界像形成	視点2：社会認識形成	鍵概念	単元構成		
		事例（地） （位置／地理的スケール）	主な学習活動 【読書○、説明◎、判断●】		空間	スケール	相互関係
ファッションのようないろんな影響を受けているのか？	○本単元における主な学習内容、ファッションやスポーツを学ぶ意義		◎写真AとCに写っているものは、ファッションアイテムかスポーツアイテムかそれとも両方に当てはまるのか。誰がこれらの商品を購入しそうか。考えた理由も述べなさい。 ◎写真Bで何が起っているのか説明しなさい。 ◎どうして、写真Dの競技場が近代的であると言えるのか。	場所			単元の主な学習内容及び意義の把握
グローバリゼーションとは何か？	○グローバリゼーションの意味と影響 ○多国籍企業の意味と特色 ○多国籍企業が発展途上国に工場を保有する理由	多国籍企業10社の売上げ、10カ国の生産高 【典型事例】	○グローバリゼーションとはどういう意味か。 ○グローバリゼーションがあなたに与える影響とは、どのようなものか。3つ挙げなさい。 ○図Fにある各アイテム（飛行機、PC、テレビ、携帯電話、大型貨物船、宇宙衛星）は、グローバリゼーションの進展を援助するものである。それぞれの絵と合う文を下のリスト（荷物や人を短時間で運ぶ、人々との連絡を容易にする、世界の出来事を伝えてくれる、低価格で貨物を運搬できる、世界の情報を提供する、世界的通信網を改善する、リンクを張り情報を伝達する）から選択しなさい。 ○洋服に付いているブランド名が入ったラベルを見なさい。それを製造した国の名前を挙げなさい。 ○図C以外で世界中にテレビ放映されている主なスポーツイベントを最低4つ以上挙げなさい。 ○多国籍企業とは何か。 ○多国籍企業が発展途上国に工場を保有する理由を2つ挙げなさい。	空間、スケール、相互関係			
ファッション産業はどのように変化しているのか？	○ファッション産業が成長した理由 ○多国籍企業 NIKE の特色（販売戦略）	本社（オレゴン州）、生産地（東南アジア）、世界のNIKE（国外／ローカル、リージョナル、グローバル）	◎ファッション産業における変化を2つ挙げなさい。その変化の理由も示しなさい。 ○図Cを拡大して写し、5つの立地要因を入れて完成させなさい。 ○図Dを拡大して写し、下記を正しい場所に入れて完成させなさい（主として経済的に豊かな国、世界規模で展開、発展途上国、安い賃金、デザインとマーケティング、発展した国（先進国）） ○地図Bと裏表紙の世界地図を使って、下記の問いに答えなさい。NIKEが店舗を持っている国を6つ挙げなさい。 ○NIKE商品を生産する国を6つ挙げなさい。 ○発展途上国の中でNIKEが支社と商品を生産している国を4つ挙げなさい。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、文化の理解と多様性	ファッション産業がもたらす影響		
どのようないろんな影響を与えているのか？	○労働搾取工場で働く労働者の実態 ○多国籍企業が発展途上国に与える影響	インドネシア ジャカルタの生産工場（国外／ローカル）	○労働搾取工場とは何か。 ○労働搾取工場で働いている労働者は搾取されていると言われている。この「搾取」とはどういう意味か。 ○メルバさんの生活がどのようなものであるか。「生活環境」、「労働時間と賃金」、「労働環境」の言葉を使って簡単に説明しなさい。 ○彼女の生活の中で、一番酷いと思ったのはどの点か。 ◎どうして、NIKE やその他の企業は労働搾取工場の状況に対して対策を取り始めたのかと思うか。理由を2つ以上挙げなさい。 ◎Eの吹き出しに、発展途上国における多国籍企業に対する2つの異なる意見（理由）を書き入れなさい。	場所、空間、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、文化の理解と多様性	グローバル産業がもたらす影響		
服飾産業に何が起こっているのか？	○英国における服飾産業の変化 ○グローバリ化による服飾産業の影響 ○英国の服飾産業を守るために行ったEUと中国の合意	英国最大手の衣料品販売店、英国の繊維メーカー、中国の労働者（国内・国外／ローカル）	◎なぜ、M&Sは海外での買い付けをきめたのか。 ◎この動きの利点を3つ挙げなさい。 ◎なぜ、このニュースは服飾産業に衝撃を与えたのか。 ◎図Dにあるブラカードを見なさい。下記のうち（衣類を購入する顧客、M&Sの経営陣、デューハーストで働く労働者、中国の労働搾取工場で働く労働者）、どの人がこのような反対派の意見を支持すると思うか。その理由も挙げなさい。 ○輸出及び輸入における傾向（1990年、2000年、2005年2010年）を説明しなさい。 ◎輸出及び輸入において、最も大きく変化が起ったのはいつか。それぞれの変化の理由も説明しなさい。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、文化の理解と多様性			
スポーツはどのくらい世界規模か？	○オリンピックの歴史 ○オリンピックの規模拡大とグローバリゼーション ○サッカーにおけるグローバリゼーションの影響	オリンピックの歴史と開催地（国外／グローバル）	○1948年から2012年までのオリンピック開催地を並べ、それぞれに国名と大陸名を加えなさい。裏表紙の世界地図を参照しなさい。 ◎オリンピックはしばしば世界最大の国際行事と呼ばれている。その理由を図Dに空間に書き入れなさい。 ○ヨーロッパ以外でそれぞれの大陸から2つの国を選び、表を完成させなさい。 ◎シーズン前の遠征で代表選手団は、米国や極東に行くことが多い。その理由を3つ以上挙げなさい。 ○もし、あなたが選手になったばかりの若いサッカー選手であったなら、自分の所属クラブに外国人選手がいることでどのようなメリット・デメリットがあるだろうか。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発			
スタジアム建設の最適な地はどこか？	○新ウェンブリー・スタジアムの建設計画 ○スタジアムの最適地とその要因	バーミンガム、ウェンブリー（国内／ローカル）	○図Eの各立地要因（高速道路のアクセス、旧ウェンブリー・スタジアムの用地、近隣に多数の人口、近隣パーキング、道路と鉄道が国内の他の場所と接続、地下鉄によるアクセス、快適な環境、道路の接続は改善済み、鉄道によるアクセス、土地が利用できる）を地図CとDの数字に当てはめなさい。 ○図Fを大きく写して、新ウェンブリー・スタジアムの用地の長所と短所がわかるように書きなさい。 ○バーミンガムのような都市の郊外にスタジアムを置いた場合の長所と短所は何か。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性			
スタジアムはユース、悪いニ	○スポーツ産業が市民に与える影響 ○スポーツスタジアムの建設が与える影響	ロンドン（国内／ローカル）	○図Dは、サッカーによって創り出される仕事のいくつかを示している。表Eを書き写し、それぞれの仕事を正しい列に分類しなさい（クラブチームに関わる仕事、クラブチームに関わらない仕事） ◎選手になる以外に、あなたはどの仕事をやってみたいか。その理由も挙げなさい。 ◎図Fに示されている人々は、近所に大きなスポーツスタジアムが建つことに、誰か賛成し、誰か反対していると思うか。その理由も挙げなさい。 ◎なぜ、写真Bに移っている人々はこんなに喜んでくれているのかを考えなさい。 ○裏表紙の情報を見て、オリンピック会場の簡単な地図を書きなさい。そして、2006年時点での特色的な場所と、2012年に向けて開発が予定されている場所に印を付け、名前を書きなさい。 ◎2006年時点のこの地域の問題を説明しなさい。 ●図Cを見て、オリンピックがこの地域の再生にどのような手助けができるかを示す星形の図表を書きなさい。 ○図Bを見て、図Aで示されているコメントをダイヤモンドパターンの中に並べなさい。 ◎それでは、自分の作業結果をよく見て、調査のための問い（再生を行う理由、オリンピックの利益、主な課題、予想される結果）について答えなさい。解答にはこれらのタイトルを付けなさい。この問いには、82頁と83頁が参考になるだろう。	場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性			
オリンピックに関する調査	○ロンドンオリンピックのほとんどの競技施設がイーストエンドに建設されるという想定を踏まえて、現時点におけるこの地域の問題点及び施設建設によってこの地域にもたらされる正負の影響を提案する。	イーストエンド（国内／ローカル）		場所、空間、スケール、相互関係、自然のプロセスと人文のプロセス、環境の相互作用と持続可能な開発、文化の理解と多様性			獲得した知識（概念）の活用

(Waugh, D., Bushell, T. (2006) Fashion and sport, NEW KEY GEOGRAPHY Interactions. Nelson Thornes, pp.68-85.より筆者作成)



することによって世界中の人々と関わりがあることを認識することができる。また、それらの多くが異なる方向で人々にどのような影響を与えているのか—あるものを購入するとどのような影響がでるのか、また一国の出来事が他国の人々にどのような影響を与えるのか—を認識する)について把握する。

第2段階(小单元2～5)では、まずグローバリゼーションの意味や影響、グローバリゼーションの利点を生かす多国籍企業の特徴について確認した後、その典型として世界的に有名なスポーツ企業であるNIKEを事例に販売戦略や発展途上国に与える正負の影響について学習する構成となっている。さらに、グローバル・スケールで展開する多国籍企業の販売戦略が他国のみならず英国の服飾産業にも多大な損害を与えている事実や、このような問題を解決するために英国政府がEUや中国などの他国と協議する事態に発展したことについてもニュース報道の記事やグラフ等の資料の分析を通して学習する構成になっている。

第3段階(小单元6～8)では、まず2012年にロンドンオリンピックが開催される事実を踏まえ、現在、移動手段や通信手段の向上によりスポーツもグローバル化していることを学習する構成となっている。次にロンドンオリンピックの開催地の一つである新ウェンブリー・スタジアムの立地について交通、用地、アクセス、広さ、環境、その他の視点から分析的に検討することを通して最適地を検討したり、新しいスタジアムが建設された際に、地元住民や周辺住民、サッカーファン等にもたらされる影響について予測したりする構成となっている。

第4段階(小单元9)では、ロンドンオリンピックのほとんどの競技施設がロンドンの中でも最も貧しく、再生が真に求められているストランドフォードに近いイーストエンドに建設されるという状況を踏まえ、ロンドンオリンピックの主な目的の1つであるこの地域の再生の支援と住民の生活の質を向上させるためにできることを提案することが課題として提示される(MQ:オリンピックがロンドンにもたらす利益とは何か?)。子供はこの課題を解決するために、これまで理解・習得した知識や概念を用いて探究することとなる。具体的には、オリンピック会場として予定されている場所の2006年時点の特徴や問題点を地図に書き込んだり、オリンピックを開催することによってこの地域にもたらされる利益や損失等、予想される結果について、参考資料をもとに検討したりすることを通して、この地域の再生のため(持続可能な社会を実現)にどのような手助けができるかについて報告書を作成する。これらの活動を通して子供は、主として「環境の相互作用と持続可能な開発」、「文化の理解と多様性」等の鍵概念を活用して合理的に判断することを迫る構成となっている。

## 2.3b.2. 世界像形成としての内容構成

本単元を世界像形成の視点から整理すると、ファッション産業では、多国籍企業の典型としてNIKEの販売戦略の特色や多国企業の販売戦略によってもたらされる影響を場所、労働力、コスト等の視点から分析的に検討したり、スポーツ産業では、主としてオリンピックが世界的に拡大した理由や2012年のロンドンオリンピック開催や新スタジアム建設によってもたらされる影響を予測したりする学習を通して、ファッションやスポーツを手段として、①経済先進国と発展途上国の位置や特色、②①の地域間における社会的・経済的なつながり(関係性)、③ファッションやスポーツを視点として世界の特徴を認識させる構成となっている。具体的には、普段よく目にしているブランドの服や靴が地球の裏側で作られていることや、グローバリゼーションの利点を生かし多国籍企業が本社と生産と販売と広告活動をそれぞれ異なる場所(国)で世界規模に展開していること、またこのような多国籍企業の販売戦略が発展途上国や英国国内に様々な影響を与えていること等を認識させる構成になっている。

このような単元構成を世界像形成の視点からまとめると「ファッションやスポーツを視点とした世界地誌学習」と位置づけることができる。

## 2.3b.3. 社会認識形成としての内容構成

本単元を社会認識形成の視点から整理すると、学習活動を通して獲得される知識の質については、グローバル・スケールで展開するファッション産業やスポーツ産業の特色に関しては「記述」を求める問いや課題が、ファッション産業がグローバルに展開することによってもたらされる影響やスポーツスタジアムの建設やオリンピック開催によってもたらされる影響に関しては「説明」を求める問いや課題が設定されている。これらの知識は、最終小单元においてロンドンオリンピック開催をきっかけに貧しい地域の再生支援と住民の生活の質を向上させるためにできる方策について「判断(意思決定)」させる場面で活用を迫る展開となっており、本単元では「グローバル・スケールで展開する産業がもたらす影響と持続可能な社会の実現」が学習の中心となっている。一方、学習の結果として獲得される鍵概念に関しては、多国籍企業の一連の諸活動がいかに国内の産業や発展途上国に影響を与えるのかといった「自然的プロセスや人文的プロセス」、個人からローカル、リージョナル、ナショナル、グローバル等様々な地理的スケールの重層的・階層的な関係性(「スケール」)、グローバル・スケールで展開する産業の価値観や行為(態度)がいかに社会問題や環境問題、経済的・政治的諸問題に発展し、様々な影響を及ぼすことやそれらの問題を解決するために持続可能な社会の実現をめざし合理的に判断することの重要性等、単元「観光」と同様、7つ全ての鍵概念の獲得をめざす構成となっている。

このような単元構成を社会認識形成の視点からまとめると「文化の理解と多様性を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』」と位置づけることができる。

#### 2.3b.4. 本単元の全体構成

単元「ファッション＆スポーツ」では、グローバリゼーションの利点を生かしているグローバル・スケールで展開する産業を教材内容として用いることを通して、世界像形成の視点からは「ファッションやスポーツを視点とした世界地誌学習」として、社会認識形成の視点からは「文化の理解と多様性を中核とした地理的見方・考え方の育成をめざす『産業学習』」という二重構造の構成になっていた。本単元ではこれら2つの視点に基づき内容を構成することで、全体を通してグローバル・スケールで展開するファッション産業やスポーツ産業を事例にして多国籍企業と発達段階の異なる国々との結び付きやグローバリゼーションがもたらす影響、及び「文化の理解と多様性」をはじめとする諸概念の獲得とその活用能力を育成する学習となっているのである。また、本単元は産業学習の最終単元としてこれまでの学習で獲得してきた知識や概念を総動員して持続可能な社会を実現するための方策を提案する単元としても位置づけられている。

### Ⅲ.『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズにおける「産業学習」の内容構成論とその意義

英国中等地理テキストブック『NEW KEY GEOGRAPHY』シリーズを手がかりに「産業学習」の内容構成を単元ごとに検討してきた。その特質は、表6のように整理できる。

- (1) 世界像形成としての事例選定：第一次・第二次産業の学習では国内の特色的な地域が、第三次では国内外の特色的な地域や発達段階の異なる地域が事例地として選定され、これらの事例地の学習を通して段階的に子供の地理的空間を拡大するよう構成されている。
- (2) 世界像形成としての内容構成：子供の空間的次元を段階的に拡大させるために、第一次・第二次産業の学習ではナショナル・スケールを基盤する英国地誌

学習が、第三次産業の学習ではグローバル・スケールを基盤する世界地誌学習が展開されている。これらの学習では、いずれも多核的同心円拡大法の論理に基づきローカルまたはリージョナル・スケールの事例地が複数箇所選定されており、これらの事例地を学習することを通して、(自国の)国土や世界の諸地域の認識と国土や世界像の形成が企図されている。

- (3) 社会認識形成としての教育内容配列：第一次・第二次産業の学習では国内の産業の特色や立地要因について検討されることを通して「場所」や「空間(立地)」を中核とした鍵概念の獲得及びその活用能力の育成が、第三次産業の学習ではグローバルに展開する産業の特色やそれらの諸活動によってもたらされる影響についての認識を踏まえ、持続可能な社会の実現という視点から未来社会のあり方を検討させることを通して「環境の相互作用と持続可能な開発」や「文化の理解と多様性」を中核とした鍵概念の獲得及びその活用能力の育成がめざされている。また、全単元を通じて自然と人文の両面から産業のあらゆる側面を検討する構成となっており、「自然のプロセスと人文のプロセス」の鍵概念の獲得が通底している。
- (4) 社会認識形成としての内容構成：上記のような鍵概念の獲得及び活用を通して、第一次・第二次産業の学習では地理学特有の鍵概念の獲得による地理的見方・考え方の育成めざす「産業学習」として、第三次産業の学習では地理学特有の鍵概念の獲得を踏まえESD的見方・考え方の育成をめざす「産業学習」として組織されている。このような見方・考え方の育成に係わる順次性は、地理学の成果を基盤として地理的意思決定能力の育成に寄与するとともに、現在、持続可能な社会の形成者として求められている資質や能力にも符合するものである。

以上の考察から、本シリーズにおける「産業学習」は、社会認識形成と世界像形成の両方の論理を統合させたものであり、この意味で社会科地理教育としての「産業学習」と位置づけることができる。このような学習の特質は、産業を手段として科学的知識の獲得による社会認識

表6 英国中等地理テキストブック『NEW KEY GEOGRAPHY』における「産業学習」の内容構成論

		第一次産業	第二次産業	第三次産業
世界像形成	事例地選定	国内外の特色的な地域 発達段階の異なる地域		
	内容構成	ナショナル・スケールを基盤とする英国地誌学習 多核的同心円拡大法		
社会認識形成	教育内容配列 (中核的な鍵概念)	場所・空間(立地) 自然のプロセスと人文のプロセス		環境の相互作用と持続可能な開発 文化の理解と多様性
	内容構成	地理学特有の概念の獲得による 地理的見方・考え方の育成をめざす「産業学習」		地理学特有の概念の獲得を踏まえ ESD的見方・考え方の育成をめざす「産業学習」

(筆者作成)

形成と様々な事例地（地域社会）の学習を通して現代地理学を基礎とした世界像形成の両面を段階的・系統的に育成することがめざされている点に見い出される。グローバル化や情報化、さらには現代社会の産業構造の変化に対応した社会科学学習が求められる中、子供の知的好奇心を喚起するテーマ（例えば、観光やスポーツ & ファッション等）を選定し、産業を窓に今日の社会の特質や本質の認識形成を保証することをめざした本シリーズの「産業学習」は、わが国の中学校地理的分野における産業学習の内容構成を検討していく上で大変有益で示唆的な内容であると判断できる。

#### － 注 －

- 1 例えば、中井修・岩田一彦「イギリス『全国カリキュラム・地理 (Geography in the National Curriculum)』の解題と全訳」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第43集, pp.41-89, 1996 文献(4)等が挙げられる。
- 2 例えば、注1で示した研究以外に馬場勝「イギリス初等地理単元計画例示案（「スキーム・初等地理」）の構成原理」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第15号, pp.13-20, 2003 や文献(4), pp.14-103等が挙げられる。
- 3 詳しくは、文献(4), pp.117-123を参照。
- 4 各校種の理解目標に関して、以下の文献を参照した。
  - ・文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版, pp.51-69, 2008
  - ・文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版, pp.27-66, 2008
- 5 例えば、福田裕治「科学的な見方・考え方を育てる小学校社会科産業学習の教育内容開発－『野菜工場』を事例とした単元『日本の農業』」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第46集, pp.10-15, 2007 や文献(12), pp.163-251等が挙げられる。
- 6 例えば澁澤は、産業と社会生活の關係に経済地理的アプローチ（特に、立地条件に着目した取り扱いを工夫すること）に基づく理解をめざすことや、持続可能な社会の構築をめざす観点からアプローチすることの重要性について指摘している。詳しくは、澁澤文隆「地理学習(2)：産業と社会生活との關係の理解」全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書, pp.85-86, 2011
- 7 事例地を分類する地理的スケール及び位置に関しては、文献(4), pp.149-150を参考に市町村程度までをローカル、国家の一部地域を指すリージョナル、一国の領域を指すナショナル、複数国家の領域や地球的な広がりを目指すグローバルの類型を設けた。一方、位置は、国内と国外とに大別した。

#### － 文 献 －

- (1) 岩田一彦『社会科固有の授業理論・30の提言－総合的学習との關係を明確にする視点－』明治図書, pp.40-42, 2001
- (2) 戸田善治「連合王国（イギリス）社会科の動向」日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』, pp.358-359, 2012
- (3) Qualifications and Curriculum Authority "Geography", Programme of study for key stage 3 and attainment target, pp.102-103, 2007
- (4) 志村喬『現代イギリス地理教育の展開－「ナショナル・カリキュラム地理」改訂を起点とした考察－』風間書房, pp.27-31, 2010
- (5) 同上, pp.27-31
- (6) 前掲(4), p.30
- (7) 斎藤毅『発生的地理教育論－ピアジェ理論の地理教育論的展開－』古今書院, p.222, 2003
- (8) 荒井正剛「中学校社会科地理的分野における外国地誌学習のあり方：イギリスの地理教育を参考にして」日本地理教育学会『新地理』53(3), pp.1-19, 2005
- (9) 岩田一彦編『小学校 産業学習の理論と授業』東京書籍, pp.8-9, 1991
- (10) 草原和博「産業学習」日本社会科教育学会編『新編 社会科教育事典』ぎょうせい, pp.108-109, 2012
- (11) 同上, p.109
- (12) 岡崎誠司『変動する社会の認識形成をめざす小学校社会科授業開発研究－仮説吟味学習による社会科教育内容の改革－』風間書房, p.215, 2009
- (13) 前掲(9), pp.8-11
- (14) 前掲(1), pp.40-51

#### － 謝 辞 －

本論文を作成するにあたり、兵庫教育大学の吉水裕也先生、上越教育大学の志村喬先生には大変有益なご指導を頂きました。心より感謝申し上げます。

#### － 付 記 －

本研究の骨子は、2015年11月に日本社会科教育学会（於：宮城教育大学）において口頭発表した。



